

第46回学習会を、平成25年6月14日(金)19:00~20:00福岡市教育センターにて行いましたので報告いたします。

第46回の内容

講師 重枝一郎先生

満足型学級(Q-U)にするための実践

- 1 現在地を把握し、目的地を決める学年会
- 2 アセスメント
- 3 対応策
- 4 実践

○ GWT「わたしたちのお店屋さん」(演習)



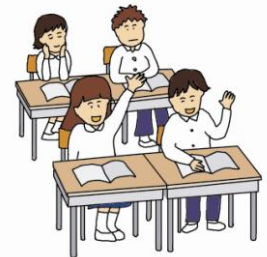
満足型学級(Q-U)にするための実践

1 現在地を把握し、目的地を決める学年会

(1) 見立て → 対応策
(確認)

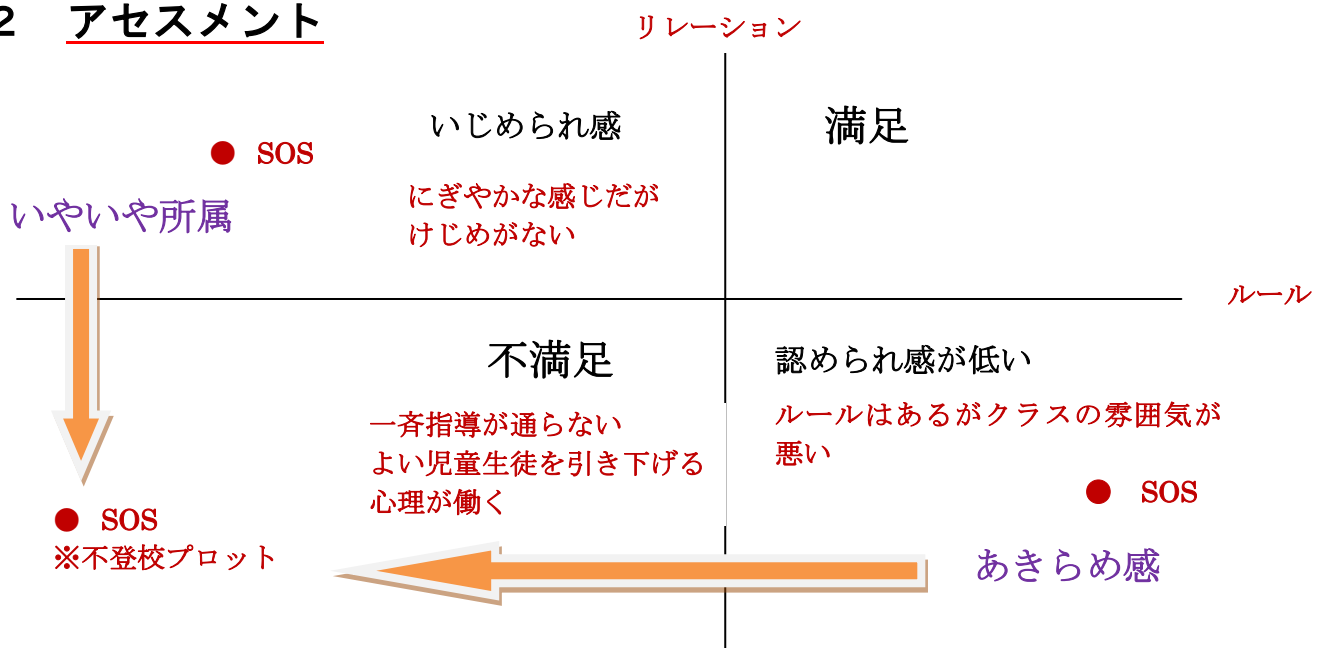
Q-U

- (2) 教科をこえた指導力
- (3) 授業の基礎的条件



学習の勢い = 教室環境 + 学習規律
学習の雰囲気 = 肯定的な人間関係 + 学び合う関係

2 アセスメント



SOSは個別でおさえておく

3 対応策

(1) 右によせる

①ルール違反を見逃さない

生活ルール
学習ルール
対人ルール

②ルール遵守も見逃さない

ほめる
勇気づける
認める

③再契約

(2) 上にあげる

①感情面での振り返り

②つながる言葉

③3つの上手

(3) 二方向の支援



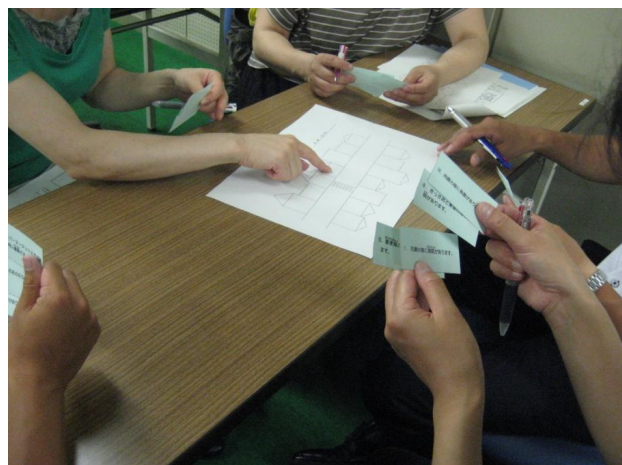
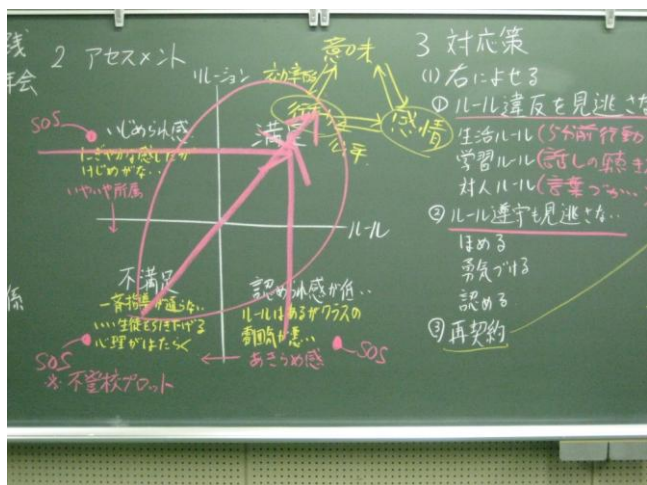
4 実践

リーダーシップとメンバーシップを同時に育てる

P 機能 : 話を進める, 意見を出す, 結論を出す, 役割を分担する

M 機能 : 気配り, 言い過ぎを押さえる, 疲れをやわらげる, 雰囲気をよくする

【演習】GWT「私たちのお店屋さん」



解説

チーム実践のためにQ-U

Q-Uをする前に、子どもがどのプロットに位置するかを予想してみると、ズレがあります。教師による観察には限界があります。学級の状態を見立てる場合、以下のような4種類が考えられます。

- A：本当の学級の実態とほぼ同じ実態を把握している。
- B：一部の生徒を見落としている。
- C：満足しているのか、承認感が低いのか、誰かから侵害行為を受けているのかの見分けがつかない。
- D：学校に来たくないくらい支援が必要な生徒ですら全く気付いていない。
明らかにすぐ支援が必要な生徒を見落とす。

- A先生は、子どもとコミュニケーションがとれていて、子ども同士の関係性を把握しています。
- B先生は、一部を見落としています。つまり、プロットについて、意外に思う生徒がいます。
- C先生は、プロットの見分けがつきません。
- D先生は、すぐに支援が必要な生徒も把握できません。

現状として、Bタイプの先生が多いのではないのでしょうか。最近の子どもは、本音を見せなくなっています。Q-Uは、教師の見落としている子どもの実態を教えてくれる、ひとつのツールです。

Q-Uの結果から子どもの現状を確認し、教師集団で共有すると、共通実践する内容を見いだすことができます。教師同士のコミュニケーションの量と質が高まると、必ず、子どもによい影響を与えることができます。日常的に学び合う職員室が生まれることで、子どもの集団の質も高まるのです。

つまり、Q-Uを通して、教師集団の学び合いが生まれることが大切なのです。

「学び合う教師集団」は、Q-Uのデータを見て、「意見を言わない」「意見を言ってもまとまらない」集団ではなく、それぞれの先生が自分の気付いたことを本音で話し、問題を解決しようとする集団です。だから、多様な視点による気づきや次への実践のヒントを得ることができます。さらに、教師自身が「承認感」と「意欲」を得ることができます。そして、心理的な結びつきの強い「仲間」になっていきます。

子どもも教師も同じです。教師集団が「満足型」の学校は、子どもも「満足型」になるのです。

勝負は一瞬

教師が同じように対応しても、子どもによって、その刺激が強すぎたり弱すぎたりと、受け止め方は様々です。それぞれの子どものに応じた、適度な刺激を与えることができる教師は、子どもをよく見えています。子どもの反応をよく見ていないと、独りよがりになってしまいます。チャンスは一瞬です。教師は子どもの反応に対して、一瞬の判断で適度な刺激を与えるのです。そのためには、子どもの素直な声を引き出すことが必要です。また、表情や態度などのノンバーバルな反応を見逃さないことです。

授業の基礎的条件

授業の基礎的条件とは、授業の目標や内容、方法についての考え方や形式に関係なく、すべての授業で要求される条件です。その条件の適否は、学習の雰囲気、学習規律、肯定的な人間関係に支えられています。

授業中の空気が堅苦しく、まちがいが許されない雰囲気だと、子どもたちは自由に自分の考えを話すことができません。空気がやわらかく、子ども同士の心が開かれた状態であれば、まちがっても大丈夫という雰囲気が生まれます。

授業に活動が入ると、子ども同士の関係が見えてきます。基礎的条件なしに、授業の内容的条件は高まりません。肯定的な人間関係や学び合う関係を築くことが、授業の質を高めていくのです。

管理型・なれ合い型学級の特徴は・・・

静かで整然としているが、息苦しい教室。管理型学級の特徴です。学級経営について、教師は生徒に依存しています。生徒は、あきらめ感から不満足群に流れます。

にぎやかだけど、けじめのない教室。だんだん、わがままな行動が増えていく……。なれ合い型学級の特徴です。子どもたちは自分を守るために、表面的なつきあいをします。不安のグルーピングの中で、嫌々所属しています。個別の対応をしないと、不登校になっていく可能性があります。

不登校プロット

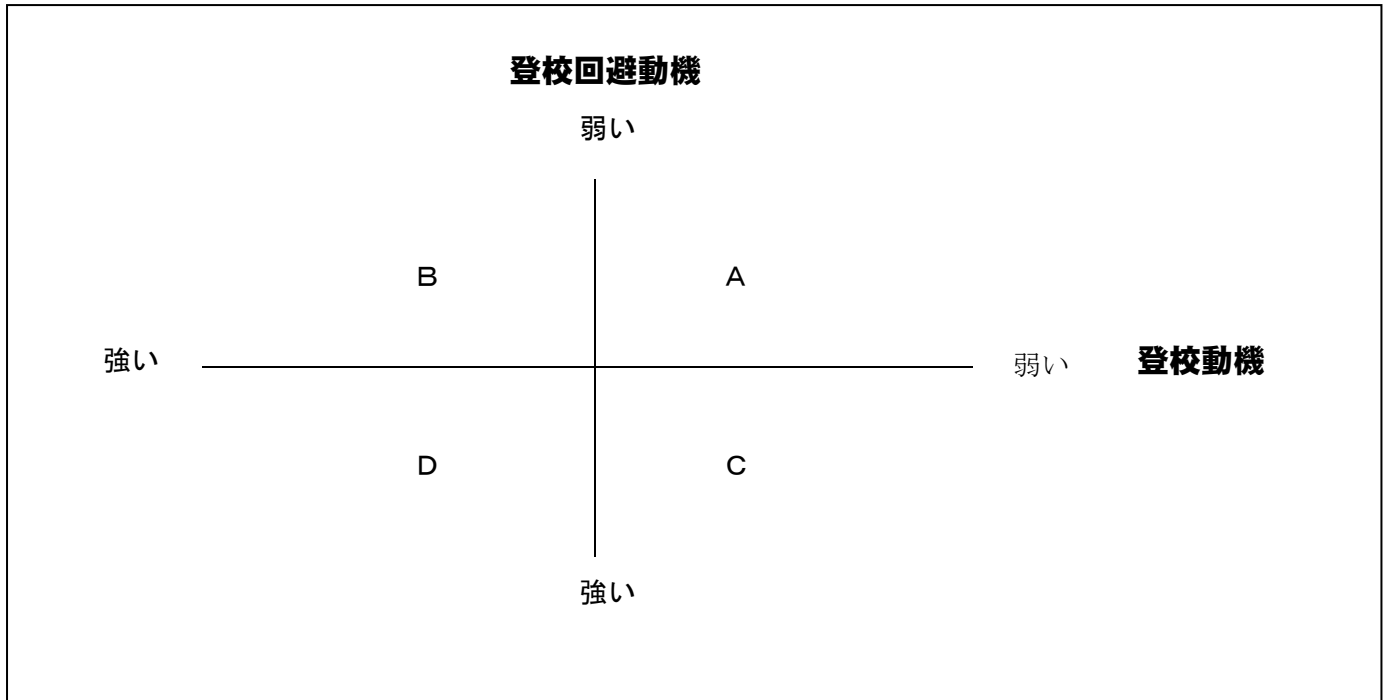
不登校といっても、いろいろなタイプの子供がいます。

子どもは、なぜ学校に行くのか？なぜ、学校に行けないのか？それを「登校動機」「登校回避動機」の2軸で整理したのが、下記の「不登校プロット」です。

横軸は、「学校には別に行かなくてもいい」「学校には行かなければならない」という、登校動機の強弱です。縦軸は、「学校に行きたくない理由は特にない」「学校に行けない強い理由がある」という、登校回避動機の強弱です。

このように整理して考えると、子どもの実態への理解が深まります。

○ 登校動機、登校回避動機のそれぞれの強弱



Dのタイプ

- ・学校に行かなければならないと思っているが、行けない強い理由がある。
- ・相反が強く引っ張り合う、心が引き裂かれる状態。
- ・例えば、勉強が得意で生徒会の生徒、親しい友人の裏切りにあい、元来登校動機は強い生徒だが、この事案で、登校回避動機も強くなっている。
- ・学校を休まなくてはならないつらい気持ちに耳を傾け、少しずつストレスを軽減させていく。時間がかかる。

Aのタイプ

- ・学校に行きたくない理由もないけど、行かなければならないとも思っていない。
- ・勉強苦手、ゲーム好き、部活にも参加していない。
- ・学校魅力の中から、小さな登校動機を探し出し、それを広げていく。
- ・例えば、美術が得意なら、美術の先生との関係から等、つながりを見いだす。少しでもできたことをほめて、少しでも学校に行けるように支援する。

Bのタイプ

- ・登校規範はある。
- ・ちょっとしたトラブルから学校に行きたくないといっている。
- ・リレーションを高める指導をする。

Cのタイプ

- ・登校規範なし。
- ・無気力だったり、非行性があつたりして退学傾向。
- ・ルールを決めて、基本的な生活習慣をつくる。
- ・強制性を背景にしながら、ほめて、強化していく。

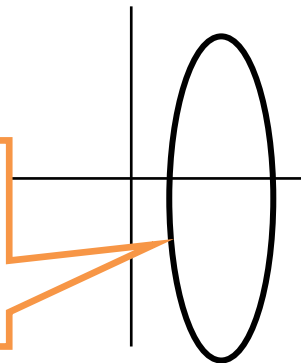
○ 学校魅力を形成していくことが教師のできること

- 学習
- 対人関係
- 活動



管理型学級の指導法

この状況を放置していると、崩壊していきます。「隠れ崩壊型」です。教師の指示がすべてで、できる子どもだけが目立ちます。目立たない子どもは不満をふくらませていきます。



「管理型」は、二極化しています。ルールはあります。そこで、認められる活動を意図的に取り入れ、集団を上にあげるようにします。

子どものよいところをお互いに認め合うようにします。SGEが効果的です。

教師は、「あたりまえ」をほめて強化します。ほめる場合は、タイミングを見て、さりげなくほめるのがポイントです。ほめた相手が浮いてしまうのは、避けなければなりません。特に、思春期の子どもの心は繊細です。子どもは不公平感に敏感です。教師は、子どもに負けにくいぐらいの繊細さと感受性を働かせる必要があります。

教師が意識して子どもを勇気付け、認めていくと、子どもは自信をもって正しい行動をとるようになります。みんなの前でゴマをするのではなく、正義が通るように、教師は意図的な働きかけをします。

また、授業で子ども同士の「認め合い」を仕組んでいくと、子どもの承認感が高まります。振り返り活動を必ず位置付け、そこで「認め合い」をしていきます。その時に、まず、自分の考えをもたせることが大切です。教師は、「授業を振り返って何を学んだのか」という意味面を問うことが多いと思います。そこに、感情面を加えると、承認感が増します。例えば、「〇〇さんが教えてくれたので、うれしかったです」という言葉を引き出すようにします。

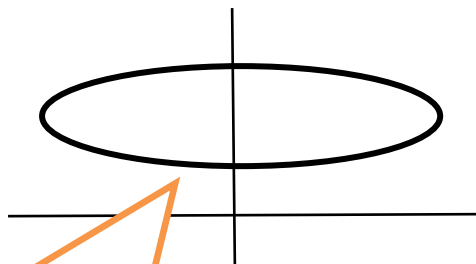
また、「教育期」をつくり、教師が手本を示します。

例えば、3つの上手・・・お礼上手・あいさつ上手・うなずき上手

言葉の力・・・「つながる言葉」を意識する。「絶対に守る、助ける」

このような「教育期」で、子どもに習慣付けるのです。

なれあい型学級の指導法



この状況を放置していると、崩壊していききます。「隠れ崩壊型」です。なれあい型学級の担任は、子どもと友達感覚で接しています。このような学級では、授業中の私語や自分勝手な行動が目立ち始めます。また、ひいきを感じる子どもが不満をふくらませていきます。

「なれあい型」は、一見、楽しそうだけどしまりが無い学級です。ルールが弱いのが特徴です。

よく見ると、全体のうちの何人かだけが、楽しそうにしています。ルールが弱いので、いじめが多いというデータがあります。そこで、教師は子どもに考えさせ、コーチング的な関わりで意見を引き出し、話し合わせ、合意形成したルールを共有します。また、ソーシャルスキルトレーニングやロールプレイ等の体験活動を取り入れ、スキルを身に付けさせます。その時に、「最悪」を実感させて考えさせると効果的です。また、学級のルールが守られる安心感を実感させるのも、効果があります。

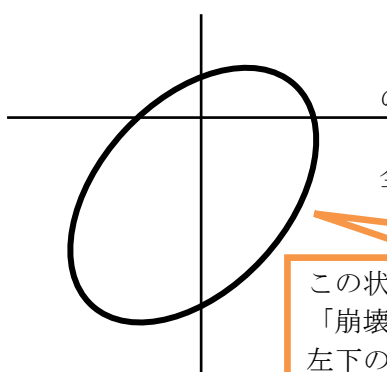
右に寄せる実践は、「ルールのない学級だから」という視点で、次の2点を徹底します。

- ①ルール違反を見逃さない（教師の得意分野です。よく見えます）
- ②ルール遵守を見逃さない（教師が意外と見落としています。ここを、見ようとする事です）

ルールについては、3つのルール（生活ルール・学習ルール・対人ルール）を意識させます。

例えば、生活ルールなら、5分前行動を徹底させます。自立というスローガンのもとに、ノーチャイムデーを設定する学校もあります。適度な刺激を与えることで、子どもに意識させることができます。その場合、教師が率先垂範することがポイントです。そのような教師の行動を、子どもはよく見えています。学習ルールなら、話の聴き方についてソーシャルスキルトレーニングを位置付ける、対人ルールなら言葉づかいについてアサーショントレーニングを位置付ける等、子どもの実態に応じてルールを強化します。

荒れ始める前に・・・再契約を



「荒れ始め」

不満足群にも、非承認群にも、侵害行為認知群にも子どもがいるので、個別対応に追われることの多い状況です。

この「ななめ型」では、チーム実践が必要です。学年教師や学校全体で具体的な戦略をたてて、チーム実践をします。

この状況であれば、担任が嫌がっても「組織対応」が必要です。「崩壊型」になってからでは、対応が非常に難しくなるからです。左下の子どもへの対応に集中すると、それ以外の子どもに手が入らなくなります。そうすると、その子ども達が不満をふくらませていきます。

1学期の荒れは表面化せず、教師が気付かないこともあります。そのままにしておくと、2学期はトラブルが続発し、3学期には学級崩壊になります。

学級に問題がないのではなく、教師に見えていないだけなのかもしれません。

教師は「理想の学級集団」のビジョンを描き、方法論をもって対応していく必要があります。

途中経過として、6月に「再契約」を結びます。そのビジョンがあれば、教師は余裕をもてます。

6月に再契約

6月は、1学期の折り返し地点です。子どもたちも学級に慣れて、遠慮がなくなる時期です。わがままや自分勝手な言動が表面化する時期でもあります。ここで「再契約」を結ぶ方法、「ビーイング」というGWTを紹介します。

ビーイングシート例



グループのルールやマナーづくりを子どもたちの手に委ねるTRです。

活動の過程で、居心地のよさは与えられるものでなく獲得するものであり、自分たちに責任があることを学ばせます

ビーイングシートには、何か象徴的な形の輪郭を描きます。(元気な人の姿・キャラクター・仲良く手をつないでいる絵など)

自分のビーイングシートに、内側には、安心感のある楽しいクラスをつくるために自分ができていることを書き出します。また、その逆にされるといやなことを外側に書きます。

次に、小グループをつくり、各自が書き込んだビーイングシートを確認しながら、書きまとめます。(模造紙にまとめて教室掲示にしてもよい)

その後の学校生活の中で振り返りながら、新たな言葉があったら書き加えます。少しずつ、「ビーイング」を進化させていきます。

ブレインストーミングの要素もあるので、まとめる過程で学級目標づくりに活用することもできます。「ビーイング」を維持するため、一人一人の責任を強化していくようにします。

年度当初につくったルールやマナーを、年度途中で、「ビーイング」を利用して、意識の継続を図っていくやり方が、6月の「再契約」です。このような話し合い活動では、「聴き方」を意識させることで、信頼関係を育てていきます。

言葉には力があります。マイナス発言や攻撃的な発言に傷ついている子どもたちを守るために、効果的な活動です。

学年集会の活用

「ビーイング」のような活動に関連させて、学年集会で教師が子どもの心に響く話をする、さらに効果が高まります。言葉に対する禁止指導は、よくある指導ですが、なかなか子どもの心には響きません。

例えば、教師が自己開示して次のような話をする、子どもの心に響くのではないのでしょうか。

「先生も小学生のときに悪口を言って、叱られた。小学生の頃は、先生や親からほめられたら自尊心が上がっていた。でも、中学生になってからは、友だちが「走るの速いね」と言ってくれたことを、今でも覚えている。友だちのたった一言が、自信をもたせてくれた。たった一言の言葉で、人を幸せにすることもあれば、一生傷つけることもある。その一言で、言われた人の一生を左右することがある。どちらを選びますか？一生、誰かを傷つけると知っていて、その言葉を使っているのですか？どういう気持ちで、どういう意味で、その言葉を使っていますか？」

教師は、子どもの「行動」にばかり働きかけています。しかし、「意味」と「行動」と「感情」に、同時に働きかけると、効果が上がります。時には、子どもの「感情」に強烈に訴えることも必要です。どのように伝えたら効果的か・・・子どもの心が動くのか・・・自分だったらどうだろうか？「伝わるように言語化する」ことが、教師のチャレンジです。

学年だよりで発信

教師のチャレンジとして、保護者への啓発活動は重要です。日々の教育活動を、保護者にも「伝わるように言語化する」のです。そのツールとして、「学年だより」は活用できます。

学年集会で語った内容やビーイングの取組、子どもたちの成長の様子等、発信するドラマは日常にあふれています。保護者と信頼関係を築くためにも、「学年だより」や「学級通信」で、子どもたちのよさや教師のがんばりを伝えます。それが、教師集団の承認感を高め、共通理解・共通実践を促すことにもなるのです。

問題解決型授業を人間関係づくりとオーバーラップする！

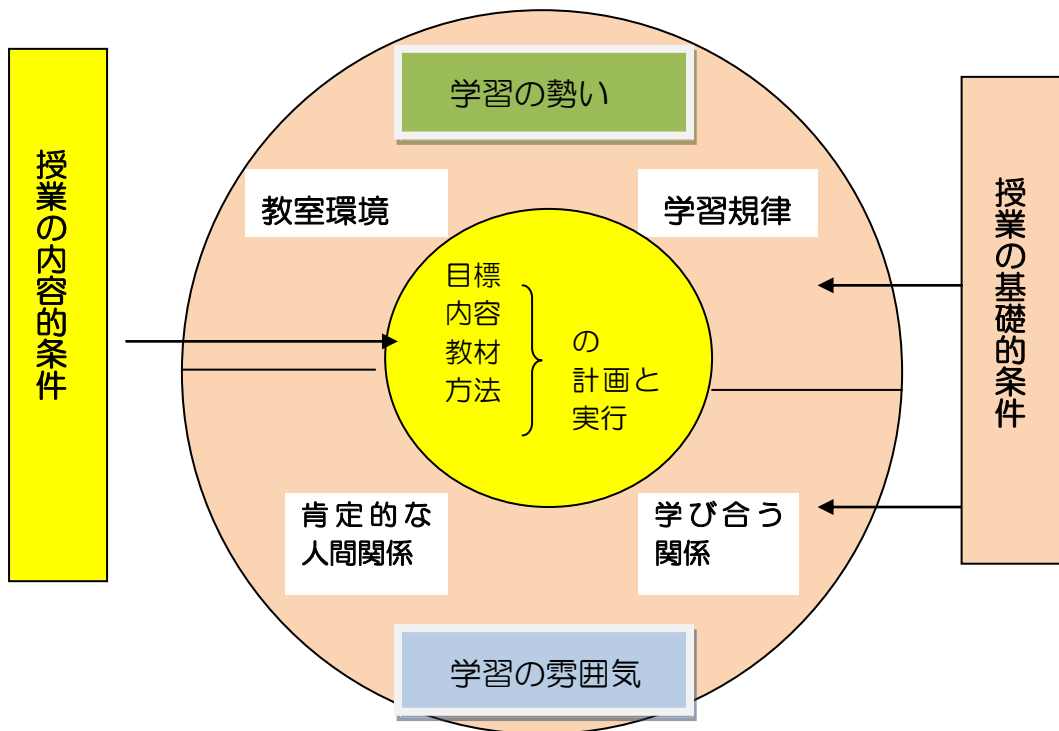
問題解決型授業は、具体的な問題解決に向けて、少人数でチーム学習を行っていく学習スタイルです。集団づくりや人間関係づくりとオーバーラップすると、相互作用があります。どちらも、チーム内の相互作用の中で、他者から学ぶ思考を身に付けたり、学習過程に主体的・能動的に関わろうとする態度を身に付けたりすることができます。

コンセンサス実習で合意形成するトレーニングをしておく、自分の考えと他者の考えの折り合いをつけることができるようになります。問題解決型授業でもコンセンサス実習でも最も大切なのは、自分の考えをもたせることです。実践的思考を鍛えることは、「思考・判断・表現力」を高めることとつながっています。

また、チーム学習には、子ども同士の人間関係が大きく影響します。メンバー間の関係の質が高まることで、学習効果も高まるのです。例えば、メンバー間に不安や緊張があり、自分の意見が言えない雰囲気があれば、チーム学習は停滞します。メンバー間の心理的距離が縮まるような、肯定的な支持的風土をつくっておくことが、大前提になります。

意見が出たら、必ずリアクションをする、どんな意見も否定しない等の、「ルールの徹底」とあたたかな「人間関係」が必要なのです。

そして、重要なのは「振り返り」です。ここで、意味と感情を統合するような、振り返り活動を必ず入れます。認め合う場を意図的に設定し、達成感や満足感を味わわせます。



問題解決的な学習の推進

先生が教えたことを，生徒が学びたいことに変える指導力
 →生徒がどう考えながら疑問の究明や問題の解決を行うか（生徒の問いと思考の流れ）を考える



《問題解決的な学習過程モデル》

学習過程	学習活動（○）と生徒の姿（☆）
<p>思考のエンジンをふかす</p> <p>のりだし</p> <p>↓</p> <p>目標の共有</p> <p>↓</p> <p>自分で考える</p>	<p>⇒ 授業規律の習慣化と課題の意識化</p> <p>○ゾーンに入る ☆集中した姿</p> <p>○学習課題・本時のゴール（めあて）をつかむ ☆疑問や驚きをもつ ☆願いやあこがれをもつ</p> <p>○「何ができるようになればよいのか」が分かる ☆「できそうだ」という予感がする</p> <p>⇒ 課題解決に必要な情報の取り出し</p> <p>○文章・情報・グラフ・データ・図表・記号・心情を読む，観察する，調べる，見る，感じとる，聴く，比較する，操作する等 ☆解決の見通しをもつ ☆解決の方法を考える ☆学習計画をたてる</p> <p>⇒ 自分の考えをもってやってみる</p> <p>○「自分から」「自分で」やってみる ☆既習事項を生かす ☆調べる ☆試してみる</p> <p>⇒ 考えを比べ，深める・広げる</p> <p>○自分の考えを伝える，友だちの考えを聞く ☆考えの共通点，相違点に気付く ☆自他の考えを検討し，共有する ☆自分の考えを見直し，修正する</p>
<p>思考のエンジンで走る</p> <p>↓</p> <p>伝え合い 練り合い</p>	<p>⇒ 学習の振り返りと変容の自覚</p> <p>○めあてについて振り返り，学んだことをまとめる ☆自分の達成度，理解度を判断する ☆学んだことを生かそうとする ☆自分に必要な学習を選択する（復習・予習・活用・発展）</p>
<p>思考のエンジンが着く</p> <p>↓</p> <p>振り返り</p>	<p>⇒ 学習の振り返りと変容の自覚</p> <p>○めあてについて振り返り，学んだことをまとめる ☆自分の達成度，理解度を判断する ☆学んだことを生かそうとする ☆自分に必要な学習を選択する（復習・予習・活用・発展）</p>

学習意欲の向上

やってみたいな

これができればいいんだ

言語活動の機能を生かし，考えを深めたり広げたりする

つかえそうだしできそうだし

これでいいのかなやってみよう

みんなの考えがわかった自分の考えもいいなもっといい方法はないかな

成就感
振り返り

～ができるようになった
 ～を復習しよう
 この考え方は他教科で使えるかな
 ○○さんが教えてくれてうれしかった

学習意欲を高め，主体的に課題解決に取り組むことを通して，基礎的・基本的な知識や技能を定着していく。

また，言語活動の充実によって，各教科のねらいの定着を確実にしていく。

演習 「わたしたちのお店屋さん」

《ねらい》

- 情報を正確に伝え、聴くことの重要性に気付く。
- 情報を集めたりまとめたりするときに、協力が大切であることを学ぶ。

《準備》

- ・ 筆記用具（各自）・白地図（1グループ1枚）・情報カード（1グループ1セット）
- ・ 振り返りシート（各自）・正解の図（1グループ1枚）

《すすめ方》

- ① 4～5人のグループに分ける。
- ② 課題を説明。白地図を配布。

「道路をはさんでお店が7軒ずつ並んでいます。どのお店がどんな順番で並んでいるのかを考えます。これから配る情報カードをもとに、みんなで話し合ってください。そして、白地図にお店の名前を書き入れましょう」

- ③ 情報カードを配る。

「カードをトランプのようにきつてみんなに配ってください。カードを他の人に見せたり取り替えたりしてはいけません。自分の言葉で他の人に正しく伝えるようにしましょう」

- ④ 「それでは始めましょう」「時間は○分間です」
- ⑤ 4つの視点で観察する。

個を見る：表情、態度、しぐさ、声の調子など

個と個を見る：会話、まわりへの影響

個と集団を見る：PとMどのような機能を果たしているか？

※P機能（話し合いを進める、意見を出す、結論を出す、役割分担をする）

M機能（気配り、言い過ぎを押さえる、疲れを和らげる、雰囲気をよくする）

集団を見る：コンテンツとプロセスに着目する。全体の雰囲気はどんな感じか、その雰囲気はどこから発せられているものなのか。

※コンテンツ（グループ活動や話し合いをしているときの討議の中身や活動の内容）

プロセス（活動や話し合いをしているときのメンバーに起こっていることがら）

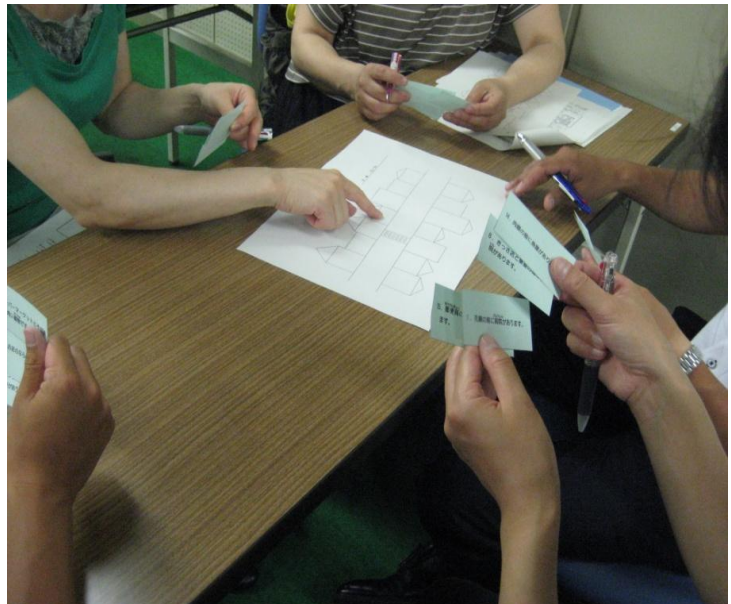
- ⑥ 時間で終了する。正解の図を配る。
- ⑦ 振り返り
- ⑧ まとめ（意識化、日常化、変容、成長）

GWT をするとき、P 機能と M 機能の両方を意識させ、体験させます。活動途中に、教師は適切な刺激を与えます。モデルを提示します。

「伝え合う時に、まわりに気を配って、小さな声で話しているのがいいね。お互いの話を、よく聴いているね」

「頭をつきあわせて話しているみんなの距離感がいいね」

具体的な態度や行動を評価して、それを全体の雰囲気にしていきます。また、子ども同士の認め合いを必ず入れるようにします。



本日のキーワード

- 学習の勢い＝教室環境＋学習規律
- 学習の雰囲気＝肯定的な人間関係＋学び合う関係
- P機能（話を進める，意見を出す，結論を出す等）M機能（雰囲気をよくする，言い過ぎを押さえる等）
- 行動ばかりに働きかけるのではなく，「行動」と「意味」と「感情」に同時に働きかける

♪ 学習会に参加された先生方の感想 ♪ （参加人数 27名）

- ・「GWTをやっても，日常にフィードバックしないと小手先だけで終わる」という言葉にズシンとききました。戦略をもって子どもたちに対応していくことが大切だと思いました。まさに最近，学級の雰囲気が気になる・・・と感じていて，ルールを逸脱する子どもにばかり目がいたので，きちんとできている子どもを認めることから始めたいと思います。「行動」「意味」「感情」のそれぞれに，働きかけていきたいと思います。
- ・体育祭の練習が始まった頃からクラスが落ち着かず，授業中も騒がしい状態が続いています。言葉尻をつかまえて笑いをとり，それを注意する声もうるさい・・・という状態です。ルールの確認をしたり，席替えをしたりと，少しずつ取り組んでいますが，私自身に余裕がないのだと思います。「見逃しているかも！」「ほめ逃しているかも！」とドキッとします。再契約のお話など，今日の内容がとても参考になりました。月曜日から元気ががんばろう！！という気持ちになりました。
- ・Q-Uの見方について，改めて理解することができました。それをどのように活用するか，頭の中でシュミレーションすることができました。学級活動にエンカウンターをもっと取り入れたいのですが，その時間を確保することが難しいです。子どもたちと深く関わり，相手の心に届くような話ができる教師になりたいです。
- ・月曜日にQ-Uの結果が出ますが，きっと「崩壊型」だと思うクラスを担任しています。一番気になるのは，給食時間です。弱肉強食という言葉がピッタリのクラスで，これはいけないと思い，給食委員を中心にルール作りをしました。今日はどうにかルールを守って，給食の状態もよかったのですが，明日からどうなるかと思っています。子どもたちをしっかりとほめながら，右に寄せる取組（ルールの徹底）を継続したいと思います。
- ・「友だちの一言」が大きな影響を与えるという話が印象に残りました。自分（教師）だけがほめても，生徒の心に響かないことが最近多々あって，困っていました。子どもたちが互いにほめ合う機会をつくっていく工夫をしていこうと思います。また，学級経営において，男子の指導に困っています。どうしても男子の集団では上下関係ができてしまい，権力のある子が生まれます。その子が学級でプラスに働くような環境をつくりたいのですが，なかなかうまくいきません。
- ・重枝ワールドにひたることができ，元気をいただきました。授業にはやはり，「リズム感」が大事だと思います。生徒同士のコミュニケーション力を上げたり，学級の集団づくりのためにエクササイズをしたりと，様々な取組をすることに，継続が大事だとつくづく思います。特に，全ての授業に組み込んで，常に生徒の意識と行動に働きかけることの重要性を再認識させていただきました。「わたしたちのお店屋さん」は，中学1年生にも十分活用できそうです。早速，実践したいと思います。
- ・教師の仕事って，何ておもしろいんだろう，何てやりがいがあるんだろう，と改めて感じる事ができる学習会でした。今，班活動が活発になるように，班日誌をつくりがんでいます。
- ・明日からすぐに使える実践を知ることができて，早く週が明けて，子どもに会いたいなと思いました。まだまだ授業力はないけれど，「やれることからやっぴいこう！」というスタンスを大切にしていこうと思います。

（学級経営は大変です！崩壊型のクラスを担任すると，満足型にするための実践に悪戦苦闘です！何とも大変な喜びとやりがいのある仕事です！だからこそ，仕事に夢中になれます！早く子どもに会って，様々なことを試してみたいくなります。創造的で魅力的な仕事です！子どもと一緒に成長できる仕事です！！）